

花と木の実践養成教室

花と木の実践養成教室が始まりました！

令和3年4月13日（火）

花づくりの基礎

植物の好む環境や構造を知ることが大切です。

花づくりの基礎

植物が自然の中でどのように育っているかを知らることが、園芸を始めるにあたり重要になってきます。

育つ環境を理解すれば、用土・肥料・水やりなど植物に合わせて上手く育てることができます。

植物の故郷を知る！

▶ 植物の育つ環境を知ること、上手に育てることができます。

- ・ 湿気を好むのか！ 乾燥を好むのか！
- ・ 酸性土壌を好むのか！ アルカリ性土壌を好むのか！
- ・ 肥料を多く必要とするのか！
- ・ 寒さに強いのか！ 暑さに強いのか！
- ・ 生育期、休眠期はいつなのか！
- ・ 日を好むのか好まないのか！

☆ 適地・適作が栽培の原則です。

良い土とは

根は呼吸をしている
ため酸素が必要

必要な水分は保つ

通気性・排水性・保水性・保肥性

水はけが良く
余分な水はためない

養分を保持する力

土の種類(主な用土)



排水性・通気性が良い



有機質を含まない土(酸性)



植物性用土



水ゴケが堆積化したもの(酸性)



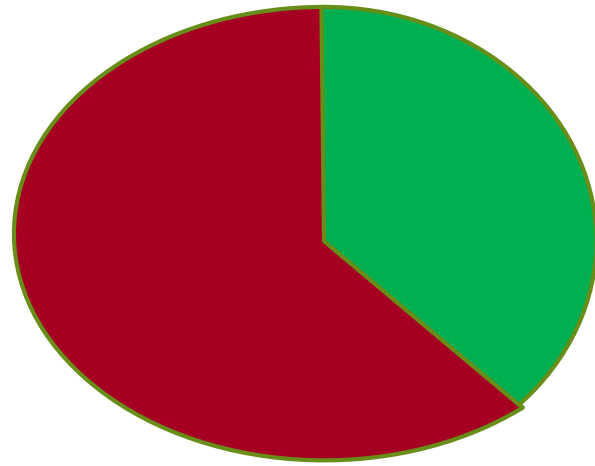
通気性があり微生物相を改善(アルカリ性)



排水性・保肥性が良い

土の配合（例）

赤玉土 6 : 4 腐葉土



水やり

『水やり三年』とよく言われ、上手な水やりはなかなか難しいものですが、欠かせない作業であり単に水をやるだけではなく、生育状態を診断するチャンスでもあります。

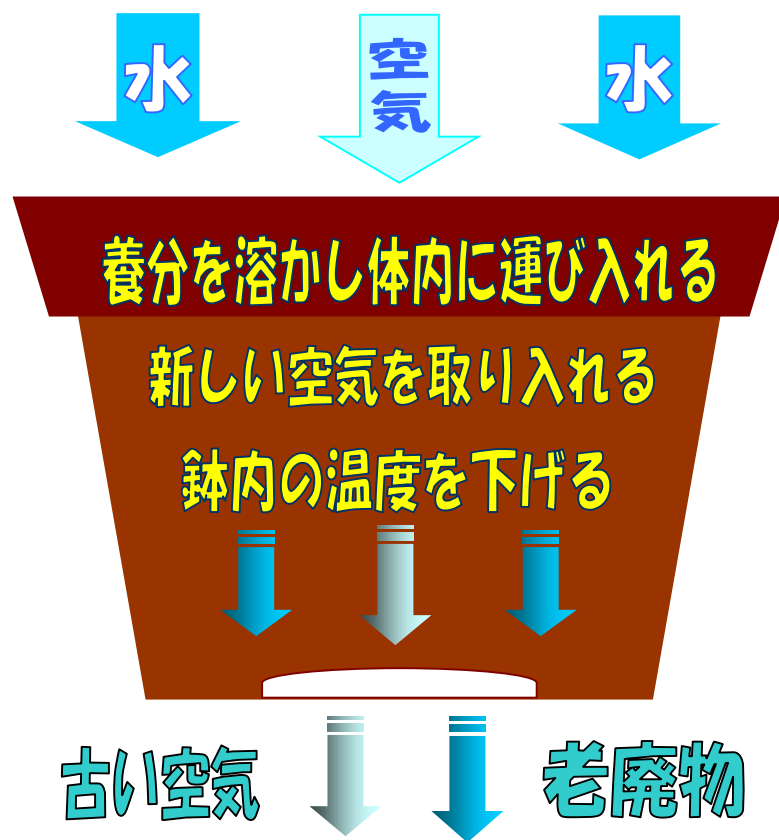
水は植物にとって生きていく上で必要不可欠であり、特に室内の観葉植物にとっては、植物本来の生育環境ではなく、人工的に補わなくてはなりません。

水をどんどん与えすぎると土の空気がなくなり、根が水分を吸収することができなくて根が腐っていきます。

効果的な水やり(根の環境を良くするための基本の水やり)

- ◆ 土の表面が乾いてから水を与える
- ◆ 水やりする時は、**ゆっくり・たっぷり**
- ◆ 鉢皿に水を貯めない

水の働き



反復灌水

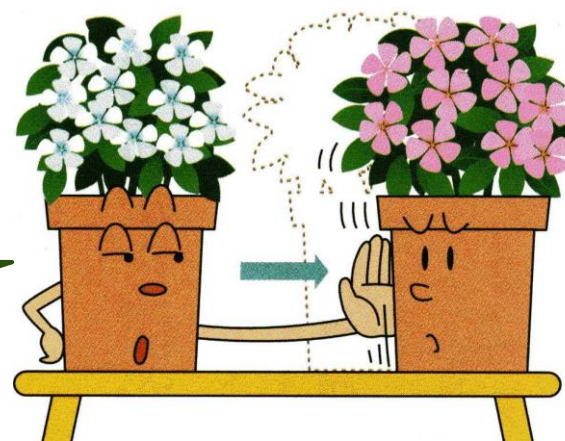


病害虫の発生に対する環境を整える

植物が生育するための条件として、日照・肥料・水やり・通風・温度・土壌などを適切に管理し、連作を避けて健康に育てることが、病害虫に対する予防法です。

- ▶ 日当たりの良い場所で管理していますか！
- ▶ 鉢と鉢との間隔をあけて、風通し良くしていますか！
- ▶ 鉢は栽培棚などの上に置いて管理していますか！
- ▶ 肥料は適量に与えていますか！
- ▶ 水を与えすぎてはいませんか！

病気が発生する前に薬剤を散布して予防すると効果的



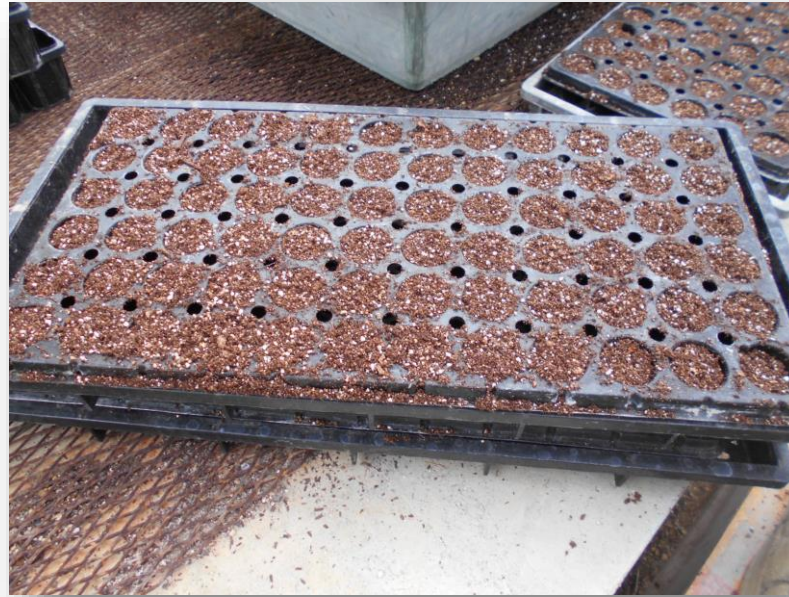
春の種まきです。
今回は、マリーゴールドの種
まきをします。





種まき用資材のトレー
に種まき専用の土を入
れます。

土を入れたら
水をたっぷり含
ませます。



種を1マスに一粒づ
つ入れています



まき終われば、細かいバーミキュライトを種が隠れるくらいにまきます。



後は、発芽を待ちます。